

平成17年度決算を公表

平成17年度の決算は、厳しい財政状況の中、国の三位一体改革の動向を見据えつつ行財政改革遂行型の予算を編成し、経費縮減を図りながら「日野いいプラン2010事業」を中心に事業を展開してきました。特に①安全で安心なまちづくり②「日野人げんき！」プランによる健康増進支援と高齢者支援の充実③「ひのっ子すくすくプラン」による子育て・子育て支援④市民サービス向上とさらなる行財政改革⑤自然と人が共生するまちづくりの5つを重点に取り組みました。広報今号では、その概要をお知らせします。(財政課)

日野市バランスシートを作成

バランスシート(貸借対照表)とは、ある一定の時点で保有するすべての資産、負債等の状況を一つの表にしたものです。表の「借方」は、市が所有する土地や建物、預金や現金などの資産を表しています。また「貸方」は、借金である地方債などの負債と正味資産(企業会計でいう「資本」)を表しています。

バランスシート(普通会計) (平成18年3月31日現在) (単位:億円)

借方: 資金の使い道	貸方: 資金の調達方法
[資産の部]	
1 有形固定資産合計 1,519 市庁舎、保育園、公園、学校施設、体育館などの土地・建物・設備など	1 固定負債合計 464 地方債(元金)のうち平成18年度以降に返済する必要がある金額及び年度末に在籍している職員が全員退職したと仮定した場合の退職金の合計金額
2 投資等合計 151 財団法人等への出資金、貸付金、特定目的に使用するために積み立てた基金	2 流動負債合計 25 地方債(元金)のうち平成17年度中に返済する必要がある金額
3 流動資産合計 66 将来の資金不足に備えるための基金、及び年度末までに支払ってもらえなかった税金など	[正味資産の部] 資産の合計額から負債の合計額を引いた残額(国庫支出金、都支出金、一般財源)
資産合計 1,736	負債・正味資産合計 1,736

これからの世代が負担しなければならない金額

今までの世代が負担した金額

平成18年度上半期予算執行状況

一般会計の当初予算は488億8千万円でしたが、3回の補正を行い、28億3,639万円増の517億1,639万円となりました。予算額に対する収入率及び執行率は、下表のとおりです。

●補正予算による主要な事業

幹線市道Ⅰ-16号線(通称:緑橋)・幹線市道Ⅰ-20号線(栄町1丁目)築造	2億2,600万円
(仮称)百草公園東緑地整備	1億4,729万円
豊田地区センター建設工事ほか	2,675万円
(社)日野青い鳥用地費補助金	2,500万円
高齢者パワーリハビリテーション及びフォローアップ事業	1,200万円
児童館・学童クラブなどへの非常通報装置・防犯カメラ等の設置	1,101万円
(仮称)百草駅前ミニ子育て応援施設開設	1,073万円
児童・生徒用防犯ブザー(小・中学生全員配布)	470万円

●各会計別予算執行状況(平成18年9月30日現在)

会計名	予算現額	収入済額	収入率(%)	支出済額	執行率(%)
一般	522億9,487万円	245億4,151万円	46.9	198億6,263万円	38.0
国民健康保険	145億6,759万円	50億2,888万円	34.5	56億4,863万円	38.8
土地区画整理	23億8,848万円	2億4,269万円	10.2	1億1,112万円	4.7
下水道	58億7,726万円	20億7,192万円	35.3	18億8,418万円	32.1
受託水道	13億8,660万円	4億7,063万円	33.9	3億9,557万円	28.5
老人保健	100億 309万円	42億5,866万円	42.6	44億 555万円	44.0
介護保険	70億7,216万円	34億9,914万円	49.5	30億5,296万円	43.2
市立病院(収入)	78億6,376万円	25億2,624万円	32.1	—	—
市立病院(支出)	80億9,803万円	—	—	32億1,775万円	39.7

*一般会計の予算現額には、繰越明許費を含む

1 安全で安心なまちづくり ……総額4億4千720万円

・学校耐震化

三小と滝合小で校舎を、七生中で体育館を耐震化しました。平成19年度までに校舎を、平成20年度までに体育館を、全小・中学校で耐震化を行います。

・市内安全パトロール・地域安全安心モデル事業

不審者・犯罪情報に基づく地点を重点的にパトロールし、危険箇所の対応を行ない、また自治会等による自主的な防犯活動への補助金の交付を行いました。

2 「日野人げんき！」プランによる健康増進支援と高齢者支援の充実 ……総額14億2千643万円

・「さわやか健康体操」など日野人四大運動事業の充実

「さわやか健康体操」、「柔・楽トレーニング体操」、「自立支援パワーリハビリテーション」、「いきいきウォーキング」の会場、開催数の増やトレーニングマシンの充実を図りました。

・1万人に1人の保健師配置(平成18年度達成)による地域の健康アンテナづくり

保健師を4人増員し、13人体制で住民と地区担当保健師との関係づくりを図るため、学習会などを通じてPR活動を行いました。
・専門医による女性なんでも健康相談

・校内緊急通報システムを全小・中学校に設置
・防犯カメラシステムを全中学校に設置
・「ひのっ子安全パトロール」及びスクールガードボランティアによる見守りを実施
・洪水ハザードマップ(危険予測地図)を作成、全戸に配布
・自動体外除細動器(AED)128台を公共施設や庁舎、民間の高齢者施設などに設置

・特別養護老人ホームの建設に補助金を交付(特別養護老人ホームあすなるほか)
・高齢者見守り支援ネットワークの構築へ向けた取り組み



開設しました。また、四小児童クラブ、二小児童クラブでは、改修工事を行い定員を拡大しました。

・次世代育成型子育てひろば「あかいやね」を開設

・民間保育園の開設助成(しせい太陽の子保育園など)

・日本一の学校ICT教育を目指し、モデル校2校で校内LAN等の基盤整備を実施

3 「ひのっ子すくすくプラン」による子育て・子育て支援 ……総額48億9千391万円



・乳幼児医療費助成の対象拡大

所得制限がなく医療費の自己負担が無料となる乳幼児の対象年齢を「4歳未満」から「義務教育就学前」まで拡大しました。

・児童館・学童クラブを増設

みなみだいら児童館ぶらねっと、ひの児童館万願寺分館、三沢学童クラブを新たに

4 市民サービス向上とさらなる行財政改革 ……総額5億6千376万円

・ワンストップサービス(総合窓口化)

できるだけ一つの窓口でさまざまな手続きが済ませるよう、市役所1階の市民窓口課で固定資産税・都市計画税の各証明書、転入や出生の手続きに伴う国民健康保険証の発行を開始しました。

・コンビニエンスストアで納税

利便性の向上のため、コンビニでの軽自動車税の収納を開始しました。今後も他の市税への導入を推進していきます。
・行政の簡素化・効率化推進のため、行政評価システムを導入
・市職員数を49人削減し、人件費を抑制

5 自然と人が共生するまちづくり ……総額7億861万円

・万蔵院台緑地(百草)取得

万蔵院台緑地の用地取得を完了し、貴重な環境資源である緑地、里山の保全を実現しました。

・環境情報センターかわせみ館の開設

環境に関する情報を収集、整理、分析し、広く市民で共有するとともに、環境講座の



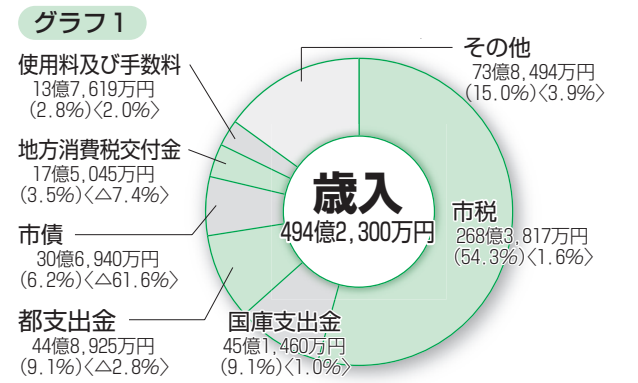
開催や環境市民団体への支援を行いました。

・ごみ焼却炉の延命化対策を実施
・北川原公園、新井わかたけ公園の用地を取得
・日野用水、向島用水親水路の整備工事を実施

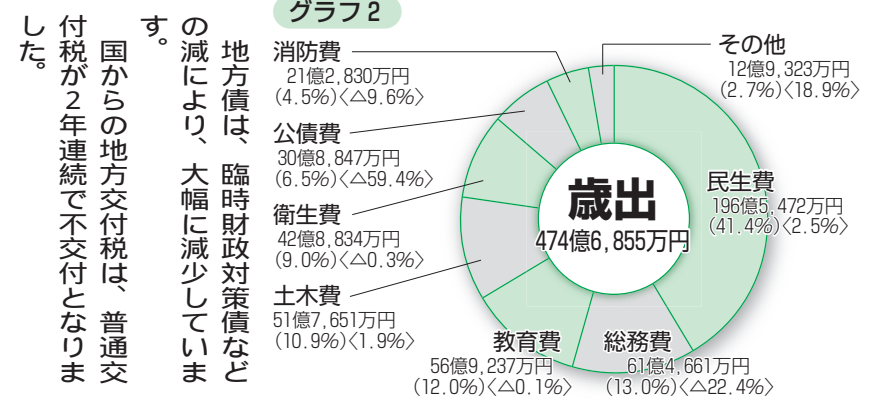
一般会計

平成17年度の一般会計の歳入は、494億2千300万円で前年度比8.2%(44億1千927万円)減、歳出は474億6千855万円で前年度比10.8%(57億4千228万円)減となり、差引19億5千445万円を平成18年度予算に繰り越しました。

歳入(グラフ1)



歳出(グラフ2)



特別会計(表1)

平成17年度の特別会計は、歳入総額が486億8千16万円で前年度比1.0%(4億934万円)の減、歳出総額は493億5千810万円で、前年度比0.1%未満(6千70万円)の微増となりました。

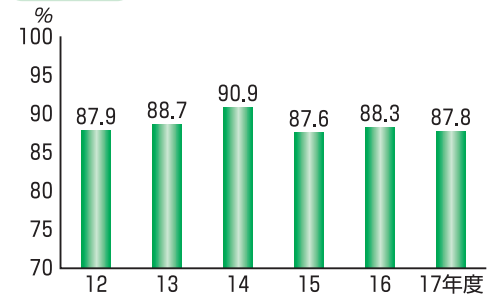
表1 特別会計

会計別	歳入	対前年度比	歳出	対前年度比
国民健康保険特別会計	132億3,318万円	9.2%	131億9,058万円	9.5%
土地区画整理事業特別会計	44億2,412万円	△17.4%	43億6,132万円	△17.6%
下水道事業特別会計	54億1,340万円	△7.8%	53億1,617万円	△5.3%
受託水道事業特別会計	14億2,963万円	△19.5%	14億2,963万円	△19.5%
老人保健特別会計	102億 314万円	△2.7%	102億8,785万円	△1.7%
介護保険特別会計	73億8,234万円	6.7%	73億3,696万円	7.5%
市立病院事業会計	65億9,435万円	0.4%	74億3,559万円	2.3%
合計	486億8,016万円	△0.8%	493億5,810万円	0.1%

表2

市町村	経常収支比率
多摩地区類似団体平均値	88.2
武蔵野市	79.0
調布市	85.4
三鷹市	87.2
多摩市	87.3
日野市	87.8
西東京市	89.3
立川市	89.8
東村山市	93.3
小平市	94.3

グラフ3 経常収支比率の推移(普通会計)



グラフ4 人件費比率の推移(普通会計)

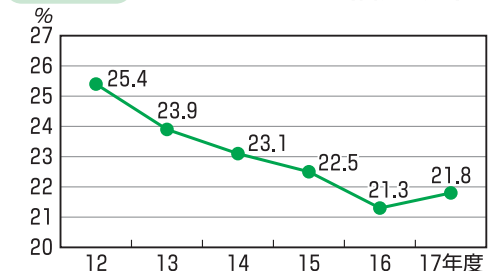
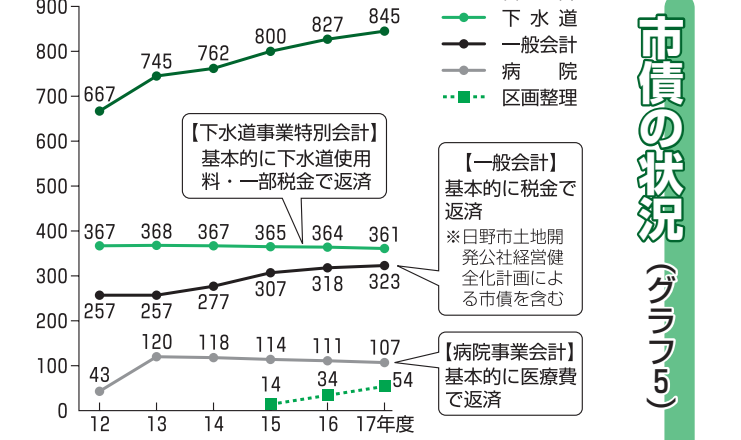


表3

土 地 建 物	157万6738平方メートル	32万5565平方メートル
財政調整基金	22億4,171万円	
公共施設建設基金	13億4,737万円	
職員退職手当基金	15億3,945万円	
環境緑化基金	11億1,956万円	
平和事業基金	1億円	
バリアフリー事業推進基金	4,932万円	
市民体育施設整備基金	6億7,044万円	
学校施設整備基金	10億1,152万円	
土地区画整理事業基金	7億 988万円	
国民健康保険高額療養費貸付基金	1,000万円	
国民健康保険出産費資金貸付基金	500万円	
減債基金	2億2万円	
介護給付準備基金	0円	
新選組関連資料収集基金	1,400万円	
ごみ処理施設整備基金	0円	
合計	90億1,827万円	

市債の状況(表3)

グラフ5 市債の状況



市債とは、単年度予算ではまかないきれない多額の資金を必要とする事業を実施するために、長期の借入金で、家計における「一口」にあたります。豊かな市民生活を支えるために必要なものですが、残高が大きくなると、将来の世代に負担を残すことになります。日野市では、年々増加する傾向にあります。

経常収支比率と人件費比率(表2・グラフ3)

市債の状況(グラフ5)